

増補版まえがき

本書は、経済などの社会科学系の学生向けに書かれた微分法と積分法についての教科書であり、「経済系のための微分積分」の書き方を変えないまま、第2章と第3章にそれぞれ、経済数学でよく出てくる「準凸関数」「準凹関数」に関する性質を増補した。凸、凹と準凸、準凹の関係は、凸（凹）であれば準凸（準凹）であり、狭義の凸（狭義の凹）であれば狭義の準凸（狭義の準凹）である（定理 2.5.1）。また、凸性（凹性）、準凸性（準凹性）の定義から狭義の凸（狭義の凹）であれば凸（凹）であり（定理 2.3.3 の後）、狭義の準凸（狭義の準凹）であれば準凸（準凹）である（定義 2.5.1 の後）。なお、凸（凹）であることと、狭義の準凸（狭義の準凹）であることに関しては、それぞれ一方であり他方でない例が存在する（例 2.5.2（図 2.17）、例 2.5.4（図 2.19））ことに注意が必要である。

増補版作成にあたり、著者に早稲田大学の玉置健一郎准教授を加えた。また、増補分にある練習、章末問題の作成にあたっては、拓殖大学政経学部の高橋大輔准教授から貴重な助言をいただいた。深く感謝申し上げます。

また、共立出版の寿日出男氏、古宮義照氏、河原優美氏には大変お世話になった。厚くお礼申し上げます。

2018年9月

著者